

## 2022年度 式辞

ここ十勝にもようやく春がやってまいりました。長かった冬も、いつか必ず終わり、心が躍る色鮮やかな季節が巡ってきます。このような良き日に、2022年度 第六十三回 入学式を挙行できますことは本学関係者、並びに本学教職員にとってかけがえのない喜びであります。

ただいま入学を許可された地域教養学科37名、生活科学科栄養士課程27名、社会福祉科子ども福祉専攻61名、同介護福祉専攻14名、合計139名の皆さん、ご入学、誠におめでとうございます。

ここ数年はコロナ禍によって、教育現場は大きく様変わりをしました。対面授業もままならず、特に短期大学は資格を取って専門職に就きたい学生が多く、そのためたくさんが必要な実習をしなければいけないのですが、それについてもさまざまな制限がかけられました。皆さんも、高校時代の多くの制約された時間、コロナウイルスと上手に付き合いながら、時を過ごしてきたのではないでしょうか。これからもまだまだこの制限を伴った関係性は続くのでしょうか。苦しい時間が多くあるかと思いますが、その中で自分なりの豊かな時を見出してほしいと願っています。

さて、大学は一体何を学ぶところなのでしょうか。もちろん、資格を取って自分の夢に向けた第一歩を刻むところ、そのように考えている人も多いことと思います。もちろん、正解です。しかし実はそれだけではないのです。この世界は謎に満ちています。実は何一つ正解などはない、そう言い切つていいのかもしれませんが。人類は、だから、真理を求めて学び続けたのです。

しかし、真理などいつでもその辺に転がっているわけではありません。泥まみれになって、汗をかきながら、懸命に探し求める、そんな中でかろうじて見出されてくるかもしれない、それが現実なのでしよう。皆さんは今まさにそのスタート地点に立ったわけです。自分で考え、自分なりの真理を求めて旅に出かける、今まさにその時なのです。自分の頭で考えてください。おかしなことがあれば、とことん、突き詰めてください。その時、皆さんには新しい世界が見えてくることでしよう。その世界こそが「大学の知」そのものなのです。それを一つでも二つでも、つかまえてください。ちなみに、「わからないことがわかった」ということだけでも素晴らしいことだと思えます。世の中は「謎」に満ちている。それらをぜひ一緒に体感してみましよう。

さて、2年間という短大での学生生活は本当に短い時間です。その中で、ひたすら学び続けてもいいでしょう。サークル活動に明け暮れてもいいでしょう。もちろん、アルバイトに精を出すのも悪くありません。全て、そこには意味があるからです。そこに新しい世界が皆さんを待っているからです。ただし、自分を大切にしてください。そして大事な時間を使っているのだという自覚だけは持っていてください。時間は、決して後戻りしてはくれないからです。「光陰矢のごとし」「後悔先に立たず」です。ぜひ、貴重で後戻りのできない時間を私たちと共に過ごし、新しい知の世界の扉を開いてゆきましよう。

本学の建学の精神は「大いなるいのちに目覚める」ことです。自分の「いのち」、他者の「いのち」の価値に目覚め、奇蹟に満ち溢れた稀有なる「いのち」だと自覚し、どれだけ大切にしていけるのか、ひたすら問い続けることです。今、私たちは戦争という人類史上最も愚かしい行為を目の当たりに

しています。「いのち」の尊厳を、その価値を、問い続けましょう。そこにこそ人間の生きる意味もあるのです。

最後になります。入学生の皆さん、健康には十分に留意して、楽しく刺激的な生活をこの学舎（まなびや）で、これから始めてまいりましょう。豊かな2年間を送ってください。

2022（令和4）年4月5日

帯広大谷短期大学 学長 田中 厚一